

Naruto Translate Ep01 (Parte 01)

- 1- 〈昔、妖狐ありけり。〉
- 2- 〈そのキツネ九つの尾らり〉
- 3- 〈その尾、一度振らば山崩れ 津波立つ。〉
- 4- 〈これに困じて人ども、忍びのやからを集めけり〉
- 5- （忍び1）四代目が来るまで足止めをかけろ！
- 6- （忍び2）これ以上一步も里に近づけるな！
- 7- 〈僅か一人が忍びの者、生死を懸けこれを封印せしめるが、その者 死にけり。〉
- 8- 〈その忍びの者、名を・・・四代目火影と申す〉
- 9- こらナルト！何ちゅう罰当たりなことをしたんだ！？
- 10- 今日という今日は絶対許さんぞ！
- 11- （ナルト）お前らさ・・・お前らさ、あんなマネできねえだろう？
- 12- だけど、俺には出来る俺はすごいんだってばよ！
- 13- （忍び）大変です。三代目！
- 14- 火影様！
- 15- （猿飛）何じゃ？またナルトのヤツが何かしでかしでもしたか？

16- （忍び） はい。歴代火影様たちの顔岩に・・・

17- 恐れ多くも落書きを・・・

18- （忍び） 待って！

19- 訳ないってばよ！

20- （イルカ） こら ナルト！

21- （ナルト） 突然何すんだってばよ イルカ先生？

22- （イルカ） お前こそ授業中にやってんだ？

23- いいか？ナルト？お前は前回も前々回も卒業試験に落ちてるんだ。

24- いたずらしてる場合じゃないだろう。ばか野郎！

25- 今日の授業は変化の術の復習テストだ！

26- すでに合格している者も並べ！

27- （生徒たち） えええ！

28- 春野サクラ行きます！変化！

29- よし！

30- やった！

31- 《しゃんなろ！》サスケ君、見てくれた？

32- （イルカ） 次！うちはサスケ。

33- （サスケ） はい。

34- よし。

35- （イルカ） 次！うずまきナルト。

36- （シカマル） ったく しちめんどくせえ。

37- （いの） みんな あんたのせいよ。

38- 知るかよ。

39- （ヒナタ） 《ナルト君、が・・・がんばって》

40- 変化！

41- ツハツハツハ！どうだ？名付けて おいろけの術。

42- （イルカ） この大ばか者！くだらん術を作るな！

43- （ナルト） クソ・・・クッソ！

44- （イルカ） キレイにするまで家には返さんからな。

45- （ナルト） 別にいいよ！うちに帰ったって誰もいねえしよ。

46- ナルト。

47- 今度は何？

48- （イルカ） まあ ^{なん}何だ・・・それ全部キレイにしたら、今度、ラーメンおごってやる。

49- よし！俺さ 俺さ、頑張っちゃう！

50- 【参上！うずまきナルト】

51- （ナルト） ナルト。何で あんた所に落書きした？

52- 火影様が どういう人たちか分かってんだろ。

53- （ナルト） ^あ当ったり^{まえ}前じゃん。

54- 要するに 火影の名前を受け継いだ人ってのは。

55- 里一番の忍者だったってことだろ？

54- 特に四代目って、里を化けぎつねから守った。

55- 英雄らしいし。

56- （イルカ）じゃあ何で？

57- （ナルト）この俺は いずれ火影の名を受け継いで

58- んでよ ^{せんだい}先代のどの火影をも超えてやるんだ！

59- でさ でさ、里にみんなに俺の力を認めさせてやんだよ。

60- ところでさ。先生。

61- お願い あんだけど。

62- （イルカ）お代わり？

63- （ナルト）んにゃ。木の葉の額当てちっとやらして。

65- （イルカ）あ これか。ダメダメ。これは学校を卒業して

66- ^{いちにんまえ}一人前と認められた証^{あか}しだからな。

67- お前は あした。

68- （ナルト）ケチ！

69- （イルカ）あアハハ・・・だから、ゴークル外してたな？

70- (ナルト) お代わり！

71- (いるか) では これより卒業試験を始め
る。

72- 呼ばれた者は隣の教室に来るように。

73- なお課題は分身の術とする。

74- (ナルト) 《ガン。よりによって 俺のい
ちばん苦手な術じゃねえか・・・》

75- 《でもさ でもさ、やってやるってば
よ！》

76- 分身の術！

77- (イルカ) 失格！

78- (ミズキ) イルカ先生。彼は身のこなしや
スタミナは優秀ですし

79- これでも、一応分身の術はできてます。

80- 合格にしてあげても・・・

81- (イルカ) ミズキ先生。みんな、最低でも
さんにな
3人には分身してるんです。

82- でも、ナルトは たった一人。

83- しかも、これは足手まといになるだけで
す。

84- 合格とは認められません。

85- (トビオ)^{ひとり}一人前だね 俺。

86- (トビオの父) よくやった さすが俺の子
だ。

87- (トビオの母) 卒業おめでとう今夜はママ
ごちそう作るわ。

88- (女性1) ^{じょせい}ねえ。あの子。

89- (女性2) 例の子よ。

90- (女性1) 一人だけ落ちたらしいわ。

91- (女性2) いい^き気味^みだわ。

92- (女性1) あんなのが忍びに なったら大
変よ。だって ホントはあの子・・・

93- (女性2) ちょっと！それより先は禁句
よ。

94- (猿飛) イルカよ。後で話がある。

95- (イルカ) はい。

96- (ミズキ) イルカ先生は決して 意地悪し
てるわけじゃないよ。

97- (ナルト) じゃあ、何で俺ばかり・・・

98- (ミズキ) ナルト君には ホントの意味で
強くなってるほしいって 思ってるんだよ。

99- 親のいない者どうし。

100- (ナルト) でも・・・卒業したかったん
だ。

101- (ミズキ) 仕方がないな。君に とって
おきの秘密を教えよう。

102- 【イルカよ・・・】

103 - 【何です？火影様】

104- 【お前の気持ちも分からんでもない。じゃが、ナルトも同じ。親の愛情を知らずに育ってきたんじゃない】

105- 【放せ！父^{おう}ちゃんと母^{かあ}ちゃんが まだ戦てんだ！】

106- （ミズキ）イルカ先生！起きてください！

107- （イルカ）どうしたんです？

108- （ミズキ）火影様の所へ集まってください。

109- どうやら、ナルト君が封印の書を持ち出したらしく。

110- （イルカ）な・・・封印の書ですって！？

111- （ナルト）えっと 最初の術は 「多重影分身」・・・

112- 何だよ！いきなり苦手の術かよ。

113- （ベッコウ）火影様、今度ばかりはいたずらでは済まされません。

114- （イワナ）封印の書は初代火影様が封印した危険なもの。

115- 使い方によっては・・・

116- （ヤジロベエ）もし里の外に持ち出されたら、それこそ一大事。

117- （猿飛）ナルトを連れ戻すのじゃ。

118- （イルカ）〈どこへ行った？ナルト？〉

119- (ミズキ) 〈このことを里に言い広め
その後ナルトを始末する。〉

〈そうすれば封印の書は俺のものだ!〉

120- (イルカ) こら! ナルト!

121- (ナルト) 見つかったか。

122- まだ術一個しか覚えてねえのに。

123- (イルカ) 〈ここで術の練習を? こんな
に なるまで・・・〉

124- (ナルト) あのさ あのさ! これからす
っげえ術 見せっからさ

124- それできたら、卒業させてくれよな。

125- この巻物の術を見せれば卒業 間違いね
えんだろ?

126- (イルカ) 誰がそんなことを?

127- (ミズキ) ミズキ先生だってばよ。

128- 巻物のことも この場所もミズキ先生
が・・・

129- (イルカ) 〈ミズキだと!?!〉